

參考資料

(参考 1) 公設民営学校・公私協力学校について①

■ 公設民営学校[国家戦略特区]と公私協力学校[教育特区(構造改革特区)]、公立学校、私立学校の違い

	公設民営学校	教育特区によらない 公私協力学校	教育特区による 公私協力学校	公立学校	私立学校
設置者	地方公共団体	学校法人	協力学校法人	地方公共団体	学校法人
学校の 位置づけ	公立学校	私立学校	私立学校	公立学校	私立学校
学校の 管理・運営	受託法人 (民間法人)	学校法人	協力学校法人 (自治体の支援・ 間接的な関与)	教育委員会	学校法人
学校運営の チェック	教育委員会が 運営を監督	学校法人の責任		教育委員会が 運営を監督	学校法人の責任
対象	併設型中学校 高等学校 中等教育学校	制限なし	幼稚園 高等学校	制限なし	制限なし
中学校授業料	無償	有償	—————	無償	有償
私学助成	—————	都道府県の判断	なし	—————	あり
人件費国庫負担 (中学校部分)	あり	なし	なし	あり	なし

※ 教育特区（構造改革特区）を活用した公私協力学校の設置実績はこれまでない。

(参考 1) 公設民営学校・公私協力学校について②

■ 従来の公設民営学校（教育特区によらない公私協力学校）の例

学校名	所轄 県名	開校 及び協力の開始	設置法人名	設置の際の 地方公共団体からの支援等
吉備高原学園 高等学校	岡山県	H3	学校法人 吉備高原学園	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県からの出資 岡山県が学校施設を整備し無償貸与 岡山県から運営経費の赤字補填としての基金の提供 理事長が県知事 事務職員として県職員を派遣
ぐんま国際アカデミー 初等部・中等部・高等部	群馬県	H17	学校法人 太田国際学園	<ul style="list-style-type: none"> 太田市が出資 太田市から運営資金提供 理事長が太田市長
仰星学園 高等学校	福岡県	H18	学校法人 仰星学園	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市から廃校となった公立学校の校地校舎を借用
東京シューレ葛飾 中学校	東京都	H19	学校法人 東京シューレ学園	<ul style="list-style-type: none"> 葛飾区から廃校となった公立学校の校地校舎を借用
幕張インターナショナルスクール (幼稚園・小学校を設置)	千葉県	H21	学校法人 幕張インター ナショナルスクール	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県・千葉市から出資

国家戦略特ワーキンググループ 関係各省からの「集中ヒアリング」(H25.5.28) 文科省提出資料より

※ 教育特区（構造改革特区）によらない公私協力学校については、私立学校の位置づけ

☞ 運営費は国庫負担の対象外であるため、学校法人の負担

☞ 私学助成金は都道府県の判断（義務教育国庫負担の対象とならないため、中学校の授業料は徴収）

(参考2) 前回の主な意見①

分類	主な意見
総論	<ul style="list-style-type: none">● 個別の高校を魅力的に変えていくという観点から、学科をはじめとする全体の課題と、個々の課題を分けて検討するとともに、それらの課題を大胆に解決していくことが必要。
データ等の把握・分析	<ul style="list-style-type: none">● 各学科・コース等の成果と課題について、同じ軸に並べて・整理することで、見えてくる像があるのではないか。● 高校全体の課題について、これまで実施してきたアンケート等を基に、その要因が歴史・伝統にあるのか、立地条件にあるのかなどを明らかにしていくことが必要。● 中学校、大学、就職先、卒業生、保護者をはじめ様々なステークホルダーからの意見等がデータとしてまとまっているのであれば参考にしたい。
卓越性等の考え方	<ul style="list-style-type: none">● 卓越性については、①すべての学生が今の基準よりも伸びていくという意味、②一定の能力に対して教育の機会を用意することで能力が伸ばされるという意味、の2つの解釈が考えられる。これらの解釈については、すべての高校に強制的に当てはめる必要はなく、各地域・高校が持つ特色を活かすことで、様々な形で卓越性・多様性が発揮されるのではないか。● 卓越性を突き詰めていくと多様性を尊重する教育に繋がるという考え方もあり、卓越性と多様性の関係を確認したうえで、個別に議論を進めていく方が良いのではないか。● 卓越性の捉え方について、自己肯定感を持ち、自ら向上心を高めることができるという点から考えることが重要。● 学習指導要領内で卓越性を考えるのか、生徒の人生を視野に入れたキャリア教育の面から考えるのかでも、議論はかなり異なってくるのではないか。● 卓越性に関して、GLHSに取組みをプラスするという考え方、GLHSに入学できない生徒層をターゲットにミッションを進めるという考え方があるが、後者が大事になるのではないか。

(参考2) 前回の主な意見②

分類	主な意見
卓越性等の考え方(続き)	<ul style="list-style-type: none"> ● ボリュームゾーンの学校に関して、何をめざすのかというミッションを明確することが必要。 ● 私立高校は、府立高校の取組みを検討したうえで自校の特色を出しており、その点を踏まえて、普通科のミッションを考えていくことが重要。
入試制度	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学や中学、保護者から見て、魅力ある高校とするために、入試制度がどのように改革されてきたのか、また、それが現在の状況にどのように反映されたのかという点について議論が必要。高校の魅力づくりには、入試制度の改革は不可欠ではないか。 ● 府立高校では、魅力ある高校に向けて、公開授業やオープンスクール、広報等に相当な努力を込めているが、現行の入試制度では、学力とのリンクが避けられない状況にある。一方で、大学では様々な形で入試が行われている。これらを比較するなどして、入試制度の改革を検討すべき。
総合的探究等	<ul style="list-style-type: none"> ● 「総合的探究の時間」については、来年度から必修化され、課題研究を着実に行うことが必要。これまでのGLHS等での優れた取組みを広げるべく、ノウハウの展開等に取り組むことが重要。 ● 科目としての情報をはじめ教科横断的な教育が進められており、その点を踏まえた、新しく求められる学びの能力の育成ということについて、総合的に検討していくことが必要。
高大連携	<ul style="list-style-type: none"> ● ステークホルダーとしての大学、特に高大連携は非常に重要。卓越性の観点から、進学先で求められている資質をカリキュラムに取り込んでいくという点において、高大連携の力が必要となる。 ● 高大接続については、様々な府立高校からの生徒が多く参加している印象がある。どの学校でも素晴らしい研究や発表が行われており、それらを調べると卓越性の議論につながるのではないか。
広報・ブランディング	<ul style="list-style-type: none"> ● 効率的・効果的な広報を行うために、卒業後の進路、学校の方向性や強みを可能な限り明確にすることが重要。 ● 入学すれば強みが持てるというブランディングを具現化し、発信できるよう努めるべき。一例になるが、学んだ内容と就職とが結びつく教育を行う学校、GLHS以外にブランディングと呼べる学校、英語に関するより一層の特長を持つ学校等が考えられる。

(参考2) 前回の主な意見③

分類	主な意見
その他	<ul style="list-style-type: none">● 論点の1つとして、先生の多様性への対処があっても良いのではないかと。現場で悩む先生を職場でケアすることにより、先生が自信を持って教えることができ、ヤル気も出てくるのではないかと。● ボリュームゾーンの学校における生徒の卓越性について、教育により能力等が向上すると考えた場合、優秀だから進学するのではなく、優秀だから就職を選択する生徒がいることについて、議論が必要。● 高齢化社会を見据え、何歳になっても雇用したいと思われる力（エンプロイアビリティ）を備えることができる環境を整えていくことが必要。